

第1回 NITS 大賞（平成29年度）エントリーシート

竹原市立忠海中学校 松本奈緒

A-5

【活動名】「道德の時間」の単元化 「ユニット」の設定による学びの深まりと変容の見取り

解決すべき課題：

- (1) 学びの深まりにくさ…「道德の時間」が単発の取組で終わり、複数の価値を関連付けて考えさせることが難しい。
- (2) 変容の見取りにくさ…「大くりなまとまり」の中で、どのように生徒の変容を見取り、個人内評価へつなげていくかイメージが持ちにくい。

目的や背景：

これまで本校では、年間指導計画に従って「道德の時間」を計画的に実施してきた。しかし、「道德の時間」の特性上、1時間の授業は単発での取組に留まりやすく、授業での学びを他領域や他の価値と関連付けて考えさせることは難しかった。また、これから「大くりなまとまり」の中での個人内評価をどのように行っていくか、これまでの取組では見通しが持てずにいた。そこで、「道德の時間」を単元化し、「ユニット」を設定することで、課題の解決を図った。

【活動の目的】

- (1) 「ユニット」を設け、ユニットを貫くテーマについて、複数の価値を関連付けて考えさせることで、学びに深まりを持たせる。
- (2) 「ユニット」を「大くりなまとまり」としてとらえ、生徒の変容を見取りやすくする。

活動内容：

(1) 「ユニット」の設定

各学期1ユニット（全4～6時間）残りは通常の単発授業
小中全学年で実施（施設一体型小中一貫校）

今年度の「ユニット」	
忠海学園 校訓 「広く やさしく 元気よく」	
ユニット	テーマ
1学期「広く」	目標に挑戦する心
2学期「やさしく」	いじめを許さない心
3学期「元気よく」	命を大切にすること

「学校教育目標」
「道德教育重点内容項目」と連動

学園朝会との連動
（小中合同縦割り班での対話活動）

【学園「夢」朝会】 【学園「挑戦」朝会】

小学生のころの夢はバスガイドなのに、学校の先生になっているのか。



【生徒の思考例】

苦しくなっても、一歩ずつ進むことで目標に近づきたいな。



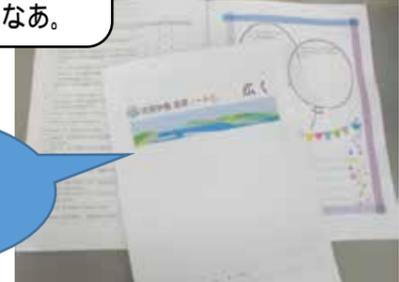
富みも名誉も得たのに、90歳を超えてもまだ挑戦を続ける生き方があるのか！

同じ目標を持つ二人は、国境を越えて人として結ばれているのだろうか。

誰にでもくじけなくなる時はある！それを乗り越えて目標に向かって生きたい！

チームで声をかけあって、目標30秒に挑戦だ！

保護者のコメント記入欄も設けました。



【ユニットノート】

(2) 「ユニットノート」の作成

ユニットごとにノートを作成し、ユニット前後、また、ユニット中の思考が記録できるようにした。

事前と事後に、保護者のコメント記入欄を設け、家庭にも道德教育の取組を意識していただくようにした。

活動の成果：

- (1) 「ユニット」を設定し、ユニットテーマに沿って振り返りを行うことで、生徒の学びが複数の視点から深まった。
- (2) 「ユニットノート」を作成し、ユニット前後の考えを比較することで、生徒の変容が見取りやすくなり、記述で行う個人内評価例を作成できた。

【ユニットテーマ「目標に挑戦する心」】

生徒A（ユニット前）
僕は、人生に夢や目標は必要ではないと思う。そもそも希望の通りになることはないし、音楽と同じように、必要ないけどあった方がいいというサイドメニュー的な感じだと思う。

生徒A（ユニット後）
このノートを読み返してみても、物語の人たちはいつも希望をもって1日1日を生きていたと思った。また、そうでなくても人に優しくかったりした。けれども、僕は夢もこれといったものもない、かなりドライだったと思うし、現実主義すぎたかもしれない。だからもう少し、希望とか、そういう明るいものをもって生活したいと思った。今すぐは無理だけど、少しずつ変えていけたらいいと思う。道德は、そういうチャンスを与えてくれる授業だと思った。（抜粋）

「目標に挑戦する心」について学習したユニットでは、自分のこれまでの生き方を見つめながら、教材を読むことができました。夢をもたない自分の現状をより客観的に見れるようになったことで、よりよく生きるために、夢や希望など、自分の人生を明るくするものを少しずつもっていきたく考えるようになりました。

【ユニットテーマ「いじめを許さない心」】

生徒B（ユニット前）
僕は、いじめは人の心を傷つけるものだと思います。からかいやいたずらがひどくなると、いじめになると思っています。すると、いじめられた人は心が傷つき、今後の生活がうまくできなくなるかもしれません。

生徒B（ユニット後）
いじめというのはからかい等がひどくなって起こるものだと思う。別に相手が嫌な思いをしていなかったらいいと思う。でも、加減を知らないといけない。少くく、というのがひどくなってしまうように「相手の気持ち」を考える必要がある。「相手の気持ち」、つまり、相手の心をつぶしてしまうから、いじめはいけない。人の生き方は自由だが、自由だからといって人の心をつぶすいじめをするのはいけない。僕は、きまりが守れる心が広い人になりたい。そうなれたら、自分でもすごいと思うし、「相手の気持ちを考える」というのが極められるのではないかと思った。そうして、自分でも満足できるような人間になりたいと思った。（抜粋）

「いじめを許さない心」について学習したユニットでは、いじめはなぜいけないのか自分なりに答えを見出そうと考えながら臨むことができました。また、きまりを守り、広い心を持つことで、相手の気持ちを考えることのできる自分になることが、自分にとって満足する生き方につながると考えるようになりました。

アピールポイント（アイデア）：

道德を単元化しよう！
そうしたら、深まるかも…

- ☑先生方にもお願いしやすいように、学期ごとに1ユニットのみ！
- ☑ユニットノートを作れば、評価にもつなげやすい！

大事なのはわかってるけど、中学校では教科をまたがる道德教育は設定しにくい！

「大くりなまとまり」を「ユニット」として設定し、取り組んだこと。
「ユニットノート」を作成し、毎時間コメントを返しながら生徒の変容を見取っていったこと。

